

★県北地域の感染症発生状況（7/30～8/5 福島県感染症動向調査より）

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎が流行しています。咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ、RSウイルス感染症が小流行しています。

福島県県南地域で6月～7月にかけて発生した麻疹（はしか）の感染拡大は8/6に終息しました。

「百日咳」にご用心！

★県北地域で「百日咳」が発生しています。

百日咳は、百日咳菌が原因で起こる感染症です。特徴のある咳が続き、治るまで2～3ヶ月かかるため、「百日咳」と呼ばれるようになりました。

免疫のない人が感染した場合、80%以上が発病すると言われています。以前は乳幼児がほとんどでしたが、最近では大人の患者も増加しています。乳児は重症となりやすく、生後6ヶ月未満の場合、生命に関わることもあるので、感染予防と咳が続く場合は早めの受診が必要です。

●感染経路は？

「飛沫感染」と「接触感染」です。患者の咳やくしゃみの際にしびきの中に含まれる菌が飛び散り、周囲に感染します。

●症状は？

7～10日程度の潜伏期間を経て、下表のように症状が経過します。

	症 状	期 間
カタル期	咳、鼻水、微熱など風邪症状。徐々に咳が激しくなる。	約2週間
痙咳期	顔を真っ赤にしてコンコンと激しく咳き込み、ヒューと音を立てて息を吸う発作となり、このような発作を繰り返す。	約2～3週間
回復期	激しい咳は治まるが、時折、発作性の咳が見られる。	約2～3週間

乳児の場合、無呼吸発作など重篤になることがあります。稀に肺炎や脳炎を合併します。

●治療は？

適切な抗菌薬を服用すると5日程度で菌は出なくなります。特にカタル期には有効です。

ママ、ほく3か月になったよ。

早く予防接種に連れてって！



<百日咳予防・治療で大切なこと>

- 1 定期の予防接種を受けましょう。
接種時期になったら早めに受けましょう。
効果は約5～10年続きます。
- 2 咳が出る方はマスクをつけましょう。
大人や年長児がかかった場合、症状が軽くすみ、知らないうちに乳幼児にうつしてしまう場合があります、注意が必要です。（適切な治療をしないと3週間前後、咳に菌を排出します。）
- 3 咳が続く場合は早めに受診しましょう。

<定期の予防接種>

※四種混合（DPT-IPV）

百日咳・ジフテリア・破傷風・不活化ポリオ、混合ワクチン

◆接種年齢：生後3ヶ月以上7歳6ヶ月未満

◆接種間隔・回数

1期初回：それぞれ20日以上あけて3回

1期追加：初回3回目終了後6ヶ月以上あけて1回

※標準的には1期初回は20～56日、

1期追加までは12か月以上18か月未満

発行日 平成30年8月9日

発行元 福島県県北保健所

医療薬事課

住所 〒960-8012

福島市御山町8-30

電話 024-534-4113

ホームページ

検索キーワード

福島県県北保健所